



2022年 11月 17日発行 会報第1123号

今週のプログラム

(2022年11月17日 第1123回例会)

『留学生との交歓会』

担当：木下健治 国際交流委員長

次週のプログラム

(2022年11月24日 第1124回例会)

卓話：よもやまのご報告(続編)

担当：藤田 芳浩会員

第1122回例会 (2022年11月10日) の記録

「会長の時間」

山田 克子会長

本日のお客様、今年度第2660地区米山奨学委員長の坂田妙子様、池田くれはRCの米山奨学生シン様、高田会員のご友人の田中 涼様、ようこそお越しくださいました。ありがとうございます。

坂田委員長、今年のクリスマス例会ではたいへんお世話になりました。

坂田委員長の素敵な歌声と共に、当クラブの米山卒業生のエリカさん、アクサさんのはにかんだ笑顔の歌声やギター演奏が昨日の事の様に思い出されます。松田会員のケーナ、近藤さんのピアノが加わり、心あたたまるクリスマス例会になりました。ありがとうございました。

今月はロータリー財団月間ですが先月は米山月間でした。ロータリーの友に掲載されておりますが米山の個人寄付は、北海道から九州までの全地区の中で第2660地区は2位になっています。

第2660地区のロータリアンが米山事業に力を注いでいることが感じられます。

当クラブが米山奨学生をお世話させて頂くのは今年度の米山奨学生グエンさんで16人目になります。

また、来年の25周年記念例会の講演者の候補にあがっているのが、15年前の当クラブの米山奨学生であったラカボサ・クレラさんと言うフィジー共和国出身の女性です。彼女は現在東京のフィジー大使館の一等書記官と大使代理を務めています。関東方面のロータリークラブから卓話に招かれたり、フィジー国代表として日本での様々な式典にも招聘されておられます。いつまでも千里メイプルRCを、そしてロータリーとの関わりを大事に思ってくれています。これまでには、いろいろな米山奨学生がおられました。お国柄の違いを感じることもありました。しかし、逆に米山奨学生の方達にも同じ思いがあるかもしれません。米山奨学生の気持ちに寄り添ってこれからも見守っていきたいと思います。



山田 克子会長



坂田 妙子様



蔡 真彦様

<お客様> 地区米山奨学委員会 委員長 坂田 妙子様 (池田くれは RC)
2022 学年度 米山奨学生 蔡 真彦 (サイ シンゲン) 様
田中 涼様 (高田会員ご友人)

<出席報告> 水本 徹 SAA 補助
会員数 (内出席免除会員 1 名) 19 名
本日の会員数 12 名
(内出席免除会員 1 名)
(内名誉会員 0 名)
本日の出席率 63.16%

<ロータリーソング> 全会員
♪君が代♪
♪奉仕の理想♪
<本日のピアノ曲> 近藤 美里さん
1. 昊~SOLA~
2. LA-LA-LU
3. 枯 葉

<幹事報告> 山本 友亮 幹事
1. 地区大会の名札が届きましたので、レターケースに配布致しております。
各自お持ち帰りください。
2. 次週 11 月 17 日の『留学生との交歓会』は翠園にて開催致します。
3. 本日例会終了後、理事会を開催致しますので、理事・役員はお残り下さい。

<今月のお誕生日> 柳原 健治会員 (15 日)

HAPPY BIRTHDAY!!



*** ———— *** ———— *** ———— *** ———— *** ———— *** ———— *** ———— *** ———— *** ———— ***

<ファインセッション> 高尾 修 SAA 補助
本日のゲスト 3 名も参加され、高尾会員からの難問出題に頭をひねっておられました。
例会場抛金：10,942 円



< S A A 報告 >

黒川 彰夫 SAA

※スマイルボックス

柳原会員 お久しぶりです。
村田会員 コメントなし

※ロータリー財団

黒川会員 朝夕が ひんやりしますね。
山田会員 山田 涼様 ようこそ おこしくございました。
相原会員・高尾会員 コメントなし

※米山記念奨学会

山本(友)会員 坂田様 本日はよろしくお祈いします。
藤田会員 坂田委員長 宜しくお祈いします！！
木下会員 坂田様 よろしくお祈いします！
高尾会員 坂田 地区米山奨学委員長 ご来訪ありがとうございます。
水本会員 坂田委員長 宜しくお祈いします。
柳原会員 ようやく、引っ越しが終わりました。
黒川会員 坂田様 サイ様 田中様 ようこそ！！
山田会員 米山地区委員長 坂田様 よろしくお祈い致します。
相原会員・山本(雅)会員 コメントなし

※メイプル基金

山本(友)会員 田中様 ようこそ
藤田会員 田中様 ようこそ
柳原会員 税務調査で大変でした。まだあります。
黒川会員 本日は坂田様 卓話をよろしく！！



〈卓話〉

人を育てる奉仕事業

地区米山奨学委員会 坂田 妙子委員長

ロータリー米山記念奨学事業は、日本のロータリーが作り育てた独自の事業で、人を育てる国際人材育成プロジェクトです。この奨学金の最大の特長は「世話クラブ・カウンセラー制度」です。米山奨学生の選考基準は、学力、人物共に優秀であることと同時に、「ロータリー活動に積極的に参加し、交流を深める意義を理解し、意欲をもって臨める人物であること」としており、実際に米山奨学生たちは、奨学生期間、或いは修了後も勉学に勤しむだけでなく、非常に積極的に、ロータリー活動に参加し、日々ロータリアンから多くの学びを受けております。

また、ロータリー米山記念奨学事業では、国籍を問わず、世界中から奨学生を募っております。現在のところ、ロータリー米山奨学生は、中国からの奨学生が圧倒的に多いですが、この背景としては、日本を留学先として志望する留学生約 138,000 名のうち、63.4%を占める約 87,000 名という大多数が中国からの留学生であるという実情があります。

米山奨学生の選出に関しましては、以前、ロータリーの皆様へ米山奨学事業へのアンケートやご意見を伺ったところ、上記の米山奨学生の国籍に関する他、「何故、貧困留学生の支援をせずに、経済的に裕福な家庭に育った留学生に奨学金を出すのか？」とのご質問がありましたが、米山記念奨学事業は、奨学生の経済的バックボーンで線引きをしてしまうことは、留学生の可能性を閉ざしてしまうことだと考えております。たとえ、生まれ育った家庭が裕福であっても、奨学金に志願する学生の多くは、奨学金制度を自力で探す努力をしており、留学生生活を自らの力で切り開こうという強い意志をもっております。

そして、数多くある奨学金制度の中で米山奨学事業に応募するのは「世界の平和を願う心を育てる」という米山事業創設の願いに共感し、志しを高く持っているからです。米山事業が、留学生の経済的バックボーンに関らず、幅広く、事業への共感と熱意を持った人材を求めていること、そして、日本と世界を繋ぐ人材を育成する事業であることを、是非ご理解いただきたいと存じます。

次に、皆様からの本事業へのご寄付についてですが、地区米山奨学委員会ではお一人 3 万円のご寄付をお願いしています。理由としては、世話クラブを希望されたクラブ様の中で、奨学生の受け入れをお願いできなかったクラブが 6 クラブあり、その 6 クラブにお願いするだけの奨学生の人数が増える為には、3 万円のご寄付が必要になってきます。

表彰制度に関しては、個人で累計 10 万円のご寄付をいただけた場合に「米山功労者」として表彰させていただきます。一例を挙げますと、今までの累計の寄付実績が 9 万円ですと、あと 1 万で米山功労者として表彰させていただくことが可能となります。クラブ全体のご寄付としての表彰制度「米山功労クラブ賞」は、実績 100 万円で表彰させていただいております。

是非、より多くのクラブ様に受賞いただければ幸いです。

米山奨学生は、奉仕の心をロータリアンから学び、志し強く人間力を学んでいきます。奨学生修了後に米山学友会に入り、学友からロータリアンになった方は、272 名。ガバナーになった方は 3 名おります。そして米山学友会より恩返しとして、東日本大震災の時には 760 万円のご寄付をいただいております。熊本地震の時には 20 万円、今まで米山学友からいただいた寄付は 4,506 万円、遺言寄付 200 万円、熱海土砂災害 150 万円です。米山奨学生たちの多くは、奨学生期間はもちろんのこと、修了後にも多大なる貢献と活躍を継続しております。

そして、これらの功績を支えるのは皆さまからのご寄付であることはもちろんですが、冒頭で述べましたこの事業の最大の特徴である「世話クラブ・カウンセラー制度」の働きかけが大変重要な役割を担います。各カウンセラー様が奨学生の方に寄り添い、橋渡し役を担っていただくことで、クラブの皆様と米山奨学生との間に、より強く、そして温かな心と心の繋がりが構築されることと存じます。

他にも米山事業については、まだまだ語り尽くせない魅力や可能性がございますが、まずは、皆様に米山奨学事業の概要や意義を知っていただき、本事業へのより一層のご関心をお持ちいただければ幸いです。そして、未来の日本が平和であることを願う、このロータリー米山記念奨学事業の国際人材育成プロジェクトへのご共感、ご理解をいただけますと幸甚の至りでございます。今後ともご理解、ご協力を賜りますようどうぞ宜しくお願い申し上げます。

米山奨学生 蔡 真彦(サイ シンゲン) 様

米山奨学金が他の奨学金ともっとも異なっているのは「コミュニケーションを大事にする」という点だと感じました。米山奨学金の奨学生選考に参加するときから、奨学生になり様々な行事に参加するときまで、「コミュニケーションが大事だ」ということをずっと思い続けてきました。

奨学生選考に参加するときは、グループ面接では他の参加者と、個人面接では面接官とやりとりをしました。面接では他人の話を一方的に聞く或いは自身が一方的に話すのではなく、自身が話しているときに他の参加者も面接官の方も積極的に反応を示してくれたり、他人が話しているときに積極的に反応を示したりすることができる雰囲気になっていると感じました。

奨学生になって米山ロータリーの様々な行事に参加する時も、コミュニケーションの大事さを感じています。オリエンテーション、例会、総会などのオフィシャルなイベントを通してコミュニケーションを広げていき、他の奨学生・先輩、ロータリアンの方々との話合いを通して、個人個人とのコミュニケーションを深めていくということを米山ロータリーの奨学生として深く感じています。

奨学生になって半年経ちましたが、この半年、例会での卓話やロータリアンの方々との雑談を通して、様々な業界の話を聞くことができ、自身と異なる背景を持つ人の生き方と考え方について知ることができました。皆様が社会奉仕のイベントの準備で共に努力している様子を見て、社会奉仕はどのように行われ、どのような困難があるのかを知るようになり、米山ロータリーの結束の固さを強く感じました。カウンセラーの方にもお食事や、吉本新喜劇の観劇に誘ってくださったので、大阪の文化についていろいろ知ることができました。米山ロータリーが異なる背景を持つ人が互いに理解し合い、共に努力する組織であることをわたしは深く感じました。この半年間学んだことを大切にして、これからもみなさまとのコミュニケーションを深め、社会奉仕のイベントに参加し、多様性が尊重される社会づくりに貢献できるような人になりたいと思います。



1. 指名委員会延期に伴うノミネー選出について

ノミネー選出には至らず、何とか12月理事会に選出できるよう理事・役員も協力することになりました。

2. ロータリー財団恒久基金について

10月27日のフォーラムでの水島委員長の提案を承認して、近いうちに各会員のご意思を尊重して、基金をするかを調査の上、実施する事とします。

3. X'mas 例会について

プログラム通り12月22日にて実施予定。12月1日の理事会にて詳細を決定します。

4. 25周年記念例会について

アンケート結果を受けて次月理事会にて検討します。

5. 今後の催事について

山田会長の思いを受けて、高尾会員が渡邊会員の道場見学を打診して下さり、良好な返事をいただいておりますが、コロナの現状を考えると近日中の実施は難しいとのこと。高尾会員に渡邊会員との情報交換の連絡は継続してお願いすることになりました。

6. その他

次週の留学生交歓会の出席者名簿などは個人情報流出の事もあり、事前にメール配信は行わず当日にペーパーにて配布することになりました。

